意見発表者2（会場④埼玉県久喜市）

意見の概要

カスリーン台風による未曽有の悲劇を教訓に始められた利根川流域の関係都県や市町村による水防演習も今年で60回になろうとしている。

水防演習は、水害を防ぐ具体的な訓練、技術の向上や記憶を風化させない意識啓発に役立っている。私は水防団長として、平成10年から既に20回以上出動し、堤防の漏水を防いでいる。出動のたび、八ッ場ダムの必要性を肌で感じる。

国民の生命財産を守ることは、国家の本務である。利根川流域の治水対策において、八ッ場ダムが現実的に最もよい方法となったからには、速やかに完成させるのが当然ではないか。十分な治水対策を行わず災害が発生すれば、それは天災ではなく、国による人災となってしまう。

私たち利根川流域の住民が安心して暮らしていけるよう国の決断に期待している。